

【会情報】

【会員企業ご訪問: vol. 109】



## 前川化学工業株式会社 (京滋支部)

今回は、京都市伏見区にある前川化学工業(株)の  
代表取締役 前川 恭徳 様を訪ねました。

本社住所	京都府京都市伏見区下鳥羽広長町172
電話	075-603-3125
FAX	075-603-2640
資本金	2,000万円
創業	昭和40年(昭和51年設立)
射出成形機	7台
従業員数	55名(男性35名、女性20名) ※各工場含む



前川 恭徳 社長

### 会社の概要・製品



本社外観

当社は、昭和40年1月に創業者である前川啓二が、啓亨ゴム工業所として個人操業を開始したことが始まりです。

その後、プラスチック成形にも携わるようになり、昭和51年7月に前川化学工業株式会社を設立しました。当社のマークは、創業者が独立前にお世話になった会社のマークからインスパイアされたものであると聞いています。

現在は、ゴム成形・プラスチック成形・加工部門が収益の三本柱となっています。プラスチックは本社、ゴムは東山、加工は宇治の工場で行っています。ゴムとプラスチックの両方を取り扱っている企業は少ないです。

ゴムに関しては、練りロール機を備え、取引先の要望に合わせた特性を持たせられるよう配合を行っています。特殊配合ができるのは京都で当社だけです。また、試験機を導入し、社内で取引先の求める基準に適合するか評価を行えるようにしています。これにより、技術力の高さと信頼を得ることができています。

プラスチックに関しては、部品メーカーとして捉えられており、成形機は小型を中心に揃えています。照明のカバーや機能部品が多く、他に医療品(血液の遠心分離器、レントゲンの持ち手、手術のジョイスティックの持ち手など)、機械部品を取り扱っています。

加工に関しては、フィルムやソリッドゴム等のシートで、プレス抜きなどを行っており、トムソン機やプロッター機、自動カッターを備えています。今後、伸ばしていきたい分野と考えています。カタログ製品の製造も、絶縁・難燃性を備えたケーブルロック製品をアセンブリーまで行っています。メーカーからの仕事の中には、製造だけにとどまらず、納品箱の手配まで行っているものもあります。

上海の工場は、取引先の海外進出に伴い、設立しました。成形機2台を設置し、プラスチック成形を行っています。独立資本で設立し、現地の従業員のみで操作しており、日本からの常駐員はおらず、単独決算を採っています。

### 自社の強み

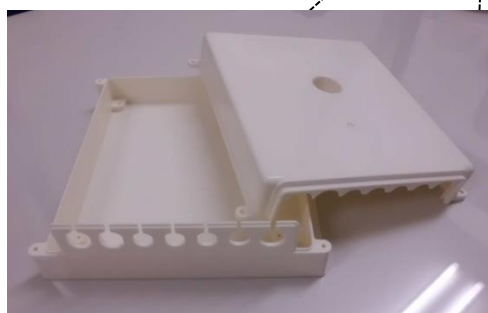
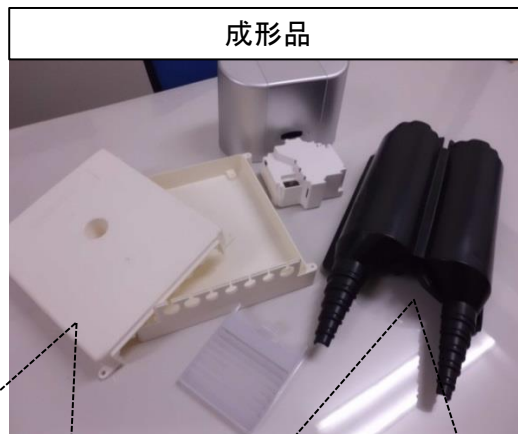
ゴムやプラスチックは、大手企業でもクリアできないような、取引先の厳しい基準をクリアできるモノづくりを行っています。

その特徴的な製品として、電柱の上に取り付けられている保護カバーがあります。これはポリエチレンメーカーとタイアップして製造したもので、耐候性などの厳しい基準をクリアしました。こちらの製品は各地の電力会社で使われています。また、構造が複雑なため、受注できない会社が多かったディスポージャー(生ごみ粉碎機)のモーターケースも当社では受注できました。

樹脂やゴム製品



成形品



モーターケース



保護カバー

こうした厳しい基準に挑み、それをクリアするモノづくりができるのは、モノづくりに自信を持っているからです。その自信は、私が社長に就任してから、モノづくりの意識改革を行ったことによります。以前は受身でしたが、積極的に試作に取り組むようにしたことで、条件出しから考えていくスタートであっても対応できるようになり、提案型の営業ができるようになりました。量産ではなく、試作だけの依頼も受けるようにしています。成形のオペレーター全員が金型のメンテナンスなどもできるようになるなどスキルアップを果たしています。

## 工場の様子

小ロット多品種で取り組んでいるため、金型が500面ほどあります。いくつもの棚で保管していますが追いつかず、最近もスライド式の棚を導入しました。その棚には、地震が起ころとも金型が落ちないようにバーを取り付けたり、作業時はヘルメットの着用を義務付けさせたりと、安全面については熱心に指導しています。また、以前は水銀灯であった照明をLEDに変え、配光も意識したので、明るい工場になりました。取引先の要望があれば製品に応じて、超音波洗浄や個分け包装をできるようにもしています。金型が多くあるため、それぞれの条件も多くありますが、それはデータで保管するとともに、手書きの資料としても残しています。



金型



成形機



ヘルメットの着用義務付け

## 今後の展望

今後の展望として、毎年5%の売上アップを狙っていきたいと思っています。参画企業が増えてコストの競争となっており、製品が長寿命化していることで交換需要も少なくなっており、新規開拓が必要となりますが、ゴムでもプラスチックでも、素材を作ることができる点をPRし、提案していきたいです。また、完成品のみならず、特殊配合したゴムなど素材を売っていかうと考えています。そして、機動力ある中小企業だからこそ、ニッチを狙っていけると考えています。

### ※ 会社を拝見して ※

社名を化学工業としているのは、一分野にとどまらず何でも取り組めることの表れと仰っており、また、それが可能な技術を持たれているところが素晴らしいと思いました。これまで取り扱ったことのない素材にも進んで取り組まれているようで、今後もこういった取組をされていくのか支部会などを通して伺っていきたくと思いました。

◎ありがとうございました  
取材:事務局 大野、河合

※本記事記載の情報については、平成26年11月27日現在のものとなります。

掲載希望の方は事務局(06-6214-8300)までご連絡ください。